

中野総合学科新校施設整備事業基本計画策定支援業務委託プロポーザル

審査講評

1 審査概要

本事業のプロポーザルでは、各分野を代表する6名の審査委員（以下「委員」という。）による審査委員会により、実施要領を策定の上、一次審査及び二次審査を行い、慎重かつ厳正に審査した。

2 選定結果

審査委員会が選定した最適候補者等は以下のとおりである。

最適候補者	ラーバンデザインオフィス・小林・細谷共同企業体 代表構成員 ラーバンデザインオフィス合同会社 構成員 小林大祐建築設計事務所 細谷悠太建築設計事務所
候補者（次点）	シムサ・キッタン・アンド・ウエスト設計共同企業体 代表構成員 （有）アトリエ・シムサー級建築士事務所 （合）kittan studio （株）スタジオウエスト一級建築士事務所
準候補者（次々点）	該当なし

3 審査経過

(1) 第1回審査委員会

日程： 令和6年6月14日（金）

場所： オンライン会議

内容： 委員長の選出、実施要領・審査方法等の協議

(2) 第2回審査委員会

日程： 令和6年6月25日（火）

場所： オンライン会議

内容： 実施要領等・審査方法等の協議

(3) 第3回審査委員会（一次審査）

日程： 令和6年9月17日（日）

場所： 都道府県会館（東京都千代田区）

概要： 二次審査参加者の選定等

最初に、提案書等の提出のあった14者について、参加資格を有すること及び提出書類について実施要領に規定する記載要領に従って作成されていることなど失格基準に抵触していないこと、更には委員への事前説明その他接触などがなく留意事項における禁止事項に抵触していないことを確認した。

次に、審査の第一段階として提案書等をもとに各委員が最大10票ずつ予備投票を行った。【表1】

第二段階として、第一段階における予備投票の結果、投票数の少ない者から順番に各委員が提案書等に対する専門的知見からの講評を交えた意見交換を行い、二次審査参加者の選定に向けた投票対象者を8者選定した。選定では、投票数に拘らずに優れた提案能力を持つと思われるものを選ぶべく、真摯な議論が行われた。

第三段階として、第二段階で選定した8者を対象に各委員が3票ずつ投票し、最終段階として、第三段階における投票の結果、投票数の少ない者から順番に提案内容等について丁寧に議論し、二次審査参加者として5者を選定した。【表2】

【表1】一次審査 予備投票結果

投票数	該当者数	審査 No.
6票	3者	3〇、7〇、8〇、
5票	2者	6〇、11〇
4票	2者	9〇、12〇
3票	2者	5、10〇
2票	2者	2、14
1票	2者	1、13
0票	1者	4
計	14者	

注1) 審査 No.は提出書類受付順 注2) 〇一次審査本投票（第三段階）対象者

【表2】一次審査 投票結果

投票数	該当者数	審査 No.
5票	2者	3※、7※
4票	—	
3票	—	
2票	3者	6※、8※、10※
1票	2者	9、11
0票	1者	12
計	8者	

注3) ※は二次審査参加者

(4) 第4回審査委員会（二次審査）

日程： 令和6年11月10日（日）

場所： 中野立志館高等学校（長野県中野市）

概要： 実施体制及び提案書について、1者当たり15分の公開プレゼンテーションを5者順番に行った。続けて5者一斉におおよそ90分の公開ヒアリングを行った。

ヒアリング終了後、提案書並びにプレゼンテーション及びヒアリングなどを踏まえ、非公開にて審議を行った。各委員が専門的知見に基づき、NSDプロジェクトの理念や学びに対する理解、設計の技術力などにより総合的に評価し、各者の作り出すバリューや課題などについて議論した。それぞれの審査員の評価軸が示される中、互いに評価の多様性に敬意を払いつつ、この事業において最もふさわしい設計者はだれなのかが議論された。一通りの議論を経た上で、5者全員を対象として、各委員が最大2票の投票を行った。【表3】

次いで、投票結果を踏まえ、最適候補者等の選定について議論したところ、投票結果に異論はなく、審査委員会の総意として、最適候補者にラーバンデザインオフィス・小林・細谷共同企業体を選定した。以降、候補者（次点）にシムサ・キッタン・アンド・ウエスト設計共同企業体を選定した。準候補者（次々点）は該当なしとした。

【表3】二次審査 投票結果

参加者名（発表順）		投票数
1	アトリエ・アンド・アイ+MMAAA 設計共同体	2
2	アーキシップ・アーキテクトカフェ設計共同体	2
3	シムサ・キッタン・アンド・ウエスト設計共同企業体	3
4	(株)古森弘一建築設計事務所	0
5	ラーバンデザインオフィス・小林・細谷共同企業体	5

4 講評

(1) 全体講評

本事業は、中野立志館高等学校、中野西高等学校という地域に親しまれる二つの高校が、NSDが掲げる共学共創の理念のもとに、「それぞれの特色である総合学科、ユネスコスクールの学びを継承し、ユネスコスクールの中心的な学びであるESD（持続可能な開発のための教育）をベースにグローバルな人材育成を目指す、地域全体を学びのフィールドとした地域の拠点としての総合学科新校」となり、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を実現できる空間となるように、学びと空間の環境整備を進めるものである。

今年の7月12日に公示、8月27日に一次審査書類の提出と、提案に向き合う時間が短かったにもかかわらず、14者からいづれも高水準の提案があり、9月17日の一次審査では、厳しい議論を経て、5者に絞込んだ。これまでのNSD施設整備プロポーザルと同様、本事業に、多大なる時間と労力をかけて、応募の労を取って頂いたすべての皆様に感謝の意を表したい。

11月10日の二次審査における5者の提案は、難しい建替え条件を満足させながら、新校に求められる「新たな学び」の実現や地域との連携など、多くの課題に真摯に向き合った優れたものであった。審査における議論は、建築としてのありようはもちろん、教育における非同期・非対面コミュニケーションの取込みの可能性、周辺地域との関係性の取込み方、厳しい冬季の気象条件への対応など、多岐にわたるものとなった。最終的には、「総合学科

×E S D」をベースにした地域の学びの拠点としての学校を目指すにあたり、「ソソラひろば」、「ラーニングパサージュ」などの空間を見事に組み合わせたラーバンデザインオフィス・小林・細谷共同企業体を全会一致で最適候補者に選定した。

最適候補者には、その提案の妥当性だけではなく、学校や地域と真摯な対応が期待できることから選定されたが、その期待に応えて全力を尽くして頂きたい。学校や地域など学校づくりに関係するすべての人が、自分たちが携わったから素晴らしい学校ができたという胸をはって言える学校づくりとなるよう、丁寧に本事業に取り組まれることを期待している。

(2) 個別講評（二次審査対象者）

ラーバンデザインオフィス・小林・細谷設計共同企業体《最適候補者》

「ソソラひろば」と名付けられた街に開かれた場所、教育機能に配慮したクラスター型の教室群、校舎の軸となる南北を貫く「ラーニングパサージュ」の雰囲気などは他案にはない内容を含んでいた。実際の審査では、学年ごとのゾーニングが独立し、行き止まりも多いため、学年横断的な経験を得る契機を担保することが難しいことなどが課題とされたが、ヒアリングでの受け答えが、学校や地域と根気強く向き合ってくれる期待が喚起される真摯なものであったことから、このチームのコミュニケーション能力を評価する声も多かった。

よって、これらを総合的に評価して、最適候補者とした。

シムサ・キッタン・アンド・ウエスト設計共同企業体《候補者（次点）》

クラス FLA、アイランド FLA、外部 FLA など、アイデアに満ちた提案であった。特に、三階に集約した一年生の活動が、学年を経るにしたがって全体に交じりあうストーリーは魅力的で、多くの委員から評価を集めた。一方で、L 型の校舎が、狭隘な敷地にどの程度馴染みうるかという厳しい現敷地の条件への対応、一階の居住環境の質に対する懸念、多様な部屋を跨いだ学年ゾーンの運営に対する課題などが指摘され、惜しくも次点に留まることとなった。

(以下、発表順)

アトリエ・アンド・アイ+MMAAA 設計共同体

地域との関係では、昇降口から地域連携ギャラリーを経て各専門棟に至る連続性に配慮され、コンパクトにまとめた空間形式は生徒の交流をイメージできる魅力的な提案であった。その一方、「ラーニングパサージュ」の教育的展開や各学年相互の関係性などについては、いくつかの懸念が示され、高い評価を得ることはできなかった。

アーキシップ・アーキテクトカフェ設計共同体

総合学科高校の特性を丁寧に読み解き、共有する基本単位を学年ごとに変えて構成した平面形は設計者の熟慮の伝わる完成度の高いものであった。また、「メディアプロムナード」や中庭群など魅力的提案も随所にみられた。その一方、実際の寸法系を精査すると、平面計画においても機能的な課題が残されていることが示され、圧倒的評価を得ることができなかった。

株式会社古森弘一建築設計事務所

校舎を東西に貫く「そそらみち」と南北に通る「セミクラスルーム」によって作られた明快な空間構成や街のリサーチから導き出した活動イメージなどは魅力的であった。一方で、「そそらみち」と教室群の関係や学年毎に同等な教室空間と総合学科の活動との相性、さらにはセミクラスルームの通過動線などに懸念が示され、高い評価を得ることはできなかった。

5 プロポーザル概要

(1) 経過

令和6年6月14日	第1回審査委員会	
令和6年6月25日	第2回審査委員会	
令和6年7月12日	公告	
令和6年7月29日	現地説明会	
令和6年8月5日	参加表明書の提出期限	14者提出
令和6年8月27日	一次審査書類の提出期限	14者提出
令和6年9月17日	第3回審査委員会 (一次審査)	二次審査参加者の選定(5者)
令和6年9月24日	一次審査結果通知	
令和6年10月24日	二次審査書類の提出期限	5者提出
令和6年11月10日	第4回審査委員会 (二次審査)	公開プレゼンテーション 公開ヒアリング 最適候補者等の選定

(2) 審査委員会等構成

審査委員会(分野別・五十音順・敬称略)

区分	氏名	所属等	分野
委員長	赤松 佳珠子	法政大学・教授 (株)シーラカンズアンドアソシエイツ・代表取締役	建築
委員	寺内 美紀子	信州大学・教授	
委員	西沢 大良	芝浦工業大学・教授 (株)西沢大良建築設計事務所・代表取締役	
委員	垣野 義典	東京理科大学・教授	建築・教育
委員	高橋 純	東京学芸大学・教授	教育
委員	武者 忠彦	立教大学・教授	地域

アドバイザー

氏名	所属等	分野
小野田 泰明	東北大学大学院・教授	都市・建築学